

和歌山だよいい

平成21年 6月号



醤油の街（湯浅町）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P10
3. お知らせ…………… P11～P14
4. ふるさと歳時記…………… P15



ささゆり

「ボルネオの悲劇」

私は国家公務員としての最後の3年間をブルネイで大使として過ごしました。ブルネイはボルネオ島の北部にあるごく小さい平和な国ですが、ほんの65年前まで、このボルネオ島も戦場となり、多くの日本の将兵がこの地で命を落としました。もちろん終戦直前、大変な激戦が英豪軍との間でくり広げられ、その中で亡くなった方もいますが、大部分の方々はジャングルの中で病死又は餓死したのです。昭和20年初頭、サイゴンの南方軍司令部はボルネオ駐屯軍に対し、東部サンダカン付近から西部コタキナバル地域への転進を命じました。今でこそ、車が十分走れる道路がありますが、当時は手つかずの低地ジャングルが延々と続くのみ。しかし、制空権と制海権を連合軍に握られている日本軍は、このジャングルを突っ切^{みち}って行軍するしか途はありませんでした。ボルネオの低地ジャングルは、和歌山の山や森とは全く違います。人々は森を恐れて入りませんから山道がありません。いつも水がしみ出すような湿地が延々と続いていて、道のない林中を進むとすぐ迷子になってしまいます。南方軍の参謀と呼ばれる軍官僚は、こんな実態など知るわけもなく「日本軍は優秀だから一日40km行軍できる。サンダカン～コタキナバルは400kmだから10日間で転進せよ。」と命じたそうです。日本の道とは違うのです。行けるわけがありません。命令に忠実だった将兵は、2万人中1万人がジャングルに消えました。さぞ無念だったでしょう。

ではどうしてこのようなことが起きたのでしょうか。上に立つ人々が実態も知らず間違った命令を発したからです。現在でも同じことが起きないとは言えません。国や県の官僚が実態を知らず観念的な政策をしていては、人々は救われません。私が「何事も実態が大事だ！本当の姿が大事だ！聞いたことや頭で想像したことを信じるな！」と、いつも県の職員に言っているのは、このような悲劇を知っているからでもあります。実態をさらに知るため、県はこれまで導入した産業別・企業別担当者に加えて、今年から振興局で地域別に担当を決めてよく状況を把握することにしています。できるだけ県民の皆様に近く。これが和歌山県の新しい哲学です。



温暖化防止
COP15 エコ
アピールサイ
クリングで挨拶する仁坂知事。(左は、フランスミカエル・スキョ
ル・メルビン テン
マーク大使)
県政トピッ
クスに関連記
事掲載

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●第86回近畿ブロック知事会議を鳥取県にて開催

- ・昨年6月、近畿ブロック知事会に鳥取県が新たに加わったことから、6月2日、3日の2日間の日程で、第86回知事会議を鳥取県にて開催しました。
- ・この知事会議までの1年間、仁坂知事が会長を務めました。

【知事会議】

・最初に、環日本海経済研究所特別研究員の三橋郁雄先生に「アジアから見た、いま関西圏に求められていること」と題した講演をいただき、特に北東アジアとの交流促進について意見交換を行いました。

・次に、道路・鉄道を対象とした交通インフラについて、広域関西として戦略的なグランドデザインをとりまとめました。

・このグランドデザインは、今まで、国が主導で決め、各県がばらばらに要望してきた交通インフラの整備計画を、地方自らが決め、その際、自県の利益のみを考えるのではなく、「大関西」の観点に立って、どのインフラ（路線）も関西の活性化に必要だという認識を共有した、という点に大きな意義があります。さらに、その実現に向け、近畿ブロック知事会として一丸となって取り組んでいくことで合意しました。

・仁坂知事も、「今回取りまとめたインフラは全部大事なんだ、というメッセージをみんなで発信しよう。」と述べました。

・そのほか、「地方分権の推進」、「国直轄事業負担金の見直し」、「国土のミッシングリンクの早期結合」を国に求める提言など、14項目の提言・アピールをとりまとめ、早速6月4日、5日には総務省・国土交通省等に要望を行いました。

・また、今後の近畿ブロック知事会のありかたについて、「国への提案・要望型」の知事会から、「行動し、実現させる」知事会へと変わっていくことで意見が一致しました。

・知事会議では、5時間半にわたる熱心な議論が交わされ、予定の時間を2時間以上もオーバーしました。

【境港市視察】

・知事会議の2日目、平井鳥取県知事のご案内により、橋下大阪府知事とともに、境港市の「境港国際旅客ターミナル」、「境港水産物地方卸売市場」、「水木しげるロード」を視察しました。



●「紀の国森づくり懇談会」開催

- ・ 5月18日、和歌山市内のホテルにおいて、県内の森林環境の整備や平成23年春開催予定の全国植樹祭に関して、有識者と意見を交換する「紀の国森づくり懇談会」を開催しました。
- ・ 今回は、神坂次郎氏、養老孟司氏、海瀬亀太郎氏、竹内典之氏、足本裕子氏、仁坂知事の6名が、全国植樹祭の開催テーマやマスコットなどについて意見を交換しました。
- ・ メンバーからは、林業など森林の文化を教育に取り組むこと、特に都市住民や子供たちが実際の体験などを通じ学ぶ場を創ること、また、木の神様にまつわる神話を広く紹介するなどの意見が出されました。
- ・ また、現在、紀州・山の日のマスコットキャラクターであるキノピーを全国植樹祭のマスコットキャラクターにも活用する考えをメンバーに問いかけ、賛同を得ました。
- ・ こうした意見を基に植樹祭の基本計画を策定し、今後の森づくりに活かしていきます。



「紀州・山の日」マスコット
キノピー

<紀の国森づくり懇談会メンバー> 敬称略、あいうえお順

- 足本 裕子 (「文化遺産を未来につなぐ森づくりの為の有識者会議」事務局長)
- 内山 りゅう (水中写真家)
- 海瀬 亀太郎 (日本林業同友会会長、前林政審議会委員)
- 梶谷 辰哉 (社団法人 国土緑化推進機構専務理事)
- 神坂 次郎 (小説家)
- C.W.ニコル (自然愛好家。イギリス出身の作家)
- 竹内 典之 (京都大学 名誉教授)
- 養老 孟司 (解剖学者、東京大学名誉教授)
- 仁坂 吉伸 (主催)

●本県への企業立地件数が63件になりました！

- ・ この度、林化成(株) (本社：大阪市)が、紀北橋本エコヒルズ(企業用地：橋本市)への新工場の立地が決定するとともに、(株)見果てぬ夢(本社：東京都)が田辺市に和歌山支店(仮称)を新設することになりました。今回の2社の新設で、平成19年以來の企業立地件数が63件となりました。
- ・ 林化成(株)は、化学製品、薬品、塗料などの各種原料などの製造販売を行っている会社です。
- ・ (株)見果てぬ夢は、TV電話、TV電話会議「CAO CAO」のインターネット上の運営システムの開発を行っています。

●「第8回わかやま環境大賞」決定

・「わかやま環境大賞」は、平成14年に創設された、環境保全に関する実践活動が他の模範となる団体又は個人を表彰する制度です。様々な活動事例を広く県民に紹介することにより、環境保全に関する自主的な取り組みを促進することを目的としています。

・8回目となる今回は『わかやま環境大賞（2団体）』、その他『わかやま環境賞（4団体）』『特別賞（2団体）』を表彰しました。こうした団体の心温まる活動によって和歌山県が支えられています。

『わかやま環境大賞（2団体）』

○紀南農業協同組合（田辺市）

～梅加工で発生する産業廃棄物を資源として再利用することで、循環型農業の実践を行い、環境負荷を低減するなど、本県の環境保全に寄与されました。～

○県立貴志川高等学校（紀の川市）

～「貴志川クリーン作戦」による清掃活動、エコスクール活動とエネルギー環境学習を結びつけての展開に取り組むなど、本県の環境保全に寄与されました。～

『わかやま環境賞（4団体）』

○名田農業を塩害から守る会（御坊市）

～名田海岸でウバメガシ等を植栽し、防潮保安林を整備して地域農業を守る取り組みなど、本県の環境保全に寄与されました。～

○青年クラブみなべ（日高郡みなべ町）

～アカウミガメの産卵地である千里浜の環境を保全し、アカウミガメの保護活動を行うなど、本県の環境保全に寄与されました。～

○環境福祉ボランティアサークル アメーバ（御坊市）

～里山の放置竹林の伐採活動、ウミガメの観察や浜そうじを通しての森林保護や環境福祉の活動など、本県の環境保全に寄与されました。～

○左会津川水質調査三校合同プロジェクト会議（田辺市）

～左会津川の水質調査を通じて、小中高三校合同による環境教育の実践活動を行うなど、本県の環境保全に寄与されました。～

『特別賞（2団体）』

○田原川河川愛護会（橋本市）

～長年にわたり田原川の清掃活動を行うなど、地域の環境美化に努められました。

○和歌山市立貴志中学校（和歌山市）

～長年にわたり校区内の清掃活動を行うなど、地域の環境美化に努められました。

●平成21年度第1回和歌山県親と子どものためのきらめき“夢”トーク開催

演題 「科学者の夢は未来のために」

講師 アメリカ合衆国イリノイ大学シカゴ校医学部薬理学科

助教 山田かおり氏（紀の川市粉河出身）

- ・今年度最初の「きらめき“夢”トーク」は、アメリカ合衆国イリノイ大学シカゴ校医学部薬理学科山田かおりさんをふるさとの粉河に招き、開催しました。
- ・山田さんは、世界で最も権威ある学術雑誌「サイエンス」を発行しているアメリカ科学振興協会から『GE & Science Award for Young Life Scientist 2008』に選ばれ表彰されました。分子生物学の分野で特に優れた業績を挙げた若手研究家が対象で、受賞したのは世界でわずか5名。その1人に選ばれました。
- ・その授賞式がノーベル賞授賞式の翌日にスウェーデンで開催され、ノーベル賞受賞者と懇談されるなど世界で最も未来を期待される科学者です。
- ・研究内容は、神経細胞の働きには、情報を受け取り、他の細胞に送り出すという方向性が必要であり、その方向を決定する分子はこれまでその場で作られると思われていたが、輸送によって蓄積されるということの世界で初めて示しました。この発見は、神経再生などの治療に役立つと考えられ、アルツハイマー病やパーキンソン病の発生のメカニズムの解明に期待が寄せられています。
- ・山田さんは、地元の県立粉河高校理数科を平成7年に卒業し、東京大学理科I類に入学。東京大学大学院農学生命科学研究科に進まれ、平成19年には博士号を取得。現在イリノイ大学シカゴ校医学部薬理学科助教として活躍されています。
- ・今回のきらめき“夢”トークでは、次のようなことを話され、280名の参加者に対して次のようなメッセージを残されました。
- ・科学者の道を志したきっかけは、「日本人女性が宇宙飛行士に選ばれたニュース」を小学生の頃に見たことで刺激を受け、自分も「科学者になれば、宇宙にいけるのではないか」と考えた。その後、宇宙飛行士から科学者として「病気を治したい」という気持ちが強くなり、現在に至った。
- ・「どうしてこんな病気があるのか」「どうして生物は生まれてきたのか」など様々なことに疑問をもつことが大切である。
- ・疑問を解き明かしたいという探求心を失わないこと、特に子どもの頃から『素直な探求心』を持ち続けることが大切である。
- ・10年後、20年後、30年後の自分は、どうなっていたいかということイメージし、そのために「今、何を準備する必要があるのか」ということをしっかり考えてください。

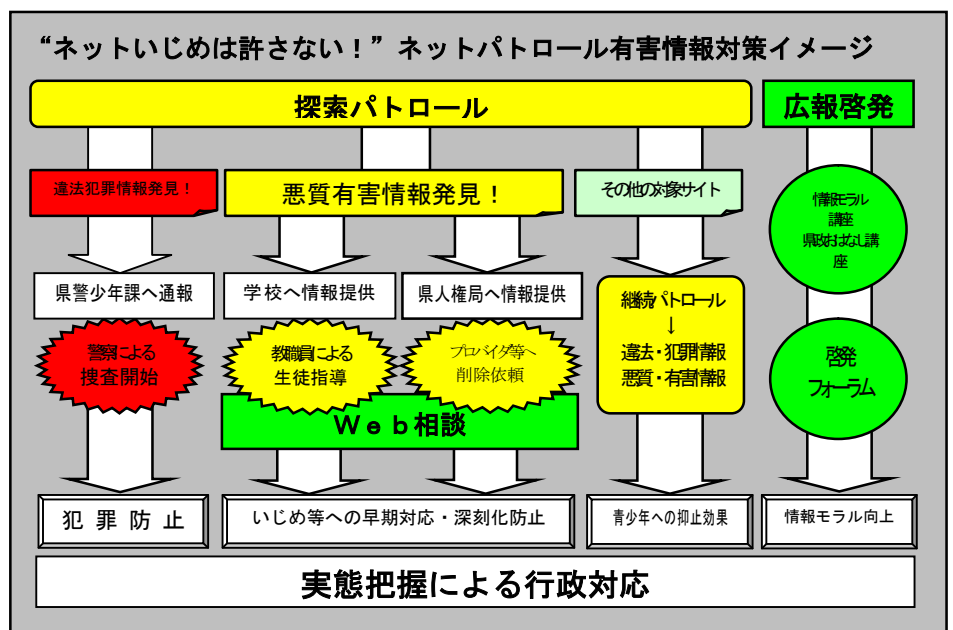
●ネットパトロール開始～有害情報対策～

・和歌山県では、青少年を“ネットいじめ”等から守るため、県教育委員会や県警察本部等と連携し、6月9日より「ネットパトロール事業」を開始しました。（図1）

・この背景には、インターネットに絡む青少年の犯罪被害やいじめなどが後を絶たないことや、小中学校及び高等学校でのいじめ等の認知件数に占める“ネット上のいじめ等”の割合の増加など、青少年を取り巻くネット関連の環境悪化があります。

・「ネットパトロール事業」では、専門パトロール員により、「学校裏サイト」や「ブログ」「プロフ」などを携帯電話等で探索し、見つかった有害情報を県青少年・男女共同参画課（事務局）で集中管理し、内容ごとに専門機関に連絡します。

・次に、見つかった有害情報の中で、学校に関係のあるものは、県教育委員会を通じてそれぞれの学校等に資料提供し、教職員による生徒指導を行うとともにプロバイダやサイト運営業者に削除を要請することで青少年の被害を最小限に食い止めます。



(図1：ネットパトロール事業概要)

・また、見つかった有

害情報が刑罰法令に抵触する可能性のある場合は、県警察本部に連絡します。少年課やサイバー犯罪対策室では、捜査を行うとともに犯罪の防止に努めます。

・さらにこの事業では、有害情報の可能性のあるサイトを、携帯電話30台で継続パトロールし、サイトの動向を見守るとともに、学識経験者を交えた実行委員会を組織し、事業の成果を検証していきます。

・これらのほかに、ますます進展する情報化社会に対応するため、県政おはなし講座や情報モラル講座、啓発フォーラムを開き、青少年のネットモラルの向上を図るとともに保護者への啓発を行っていきます。

・このように、行政・教育・警察の3機関が連携した全県的な取組は全国でも初めてで、それぞれの特徴を活かし、共に手を取り合いながら、青少年の健全育成を目指していきます。

● 「企業のふるさと」 (第1弾) !!

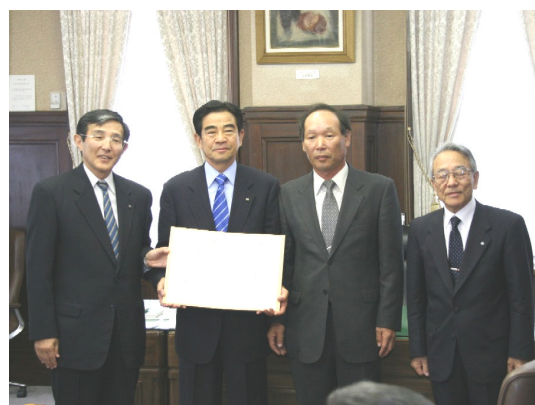
・和歌山県では、農村資源を守り、我々の「食」のふるさとを維持・確保していくため、「食」や「農業」に関心の高い企業と農村地域が協力して米づくりや地域の景観保全などの協働・交流活動に取り組む「企業のふるさと」制度を提唱し推進しています。

・このたび、この制度に賛同した「伊藤忠商事株式会社」と「天野の里づくりの会」が、かつらぎ町天野において継続的な協働・交流活動を実施することになり、さる5月25日に覚書を交わし、5月30日には、はじめての協働・交流活動である田植え体験が実施されました。

○ 「調印式」

・「企業のふるさと調印式」では、「伊藤忠商事株式会社」「天野の里づくり」「かつらぎ町」「和歌山県」の4者で覚書を交わしました。(右写真)

・覚書の内容は、米づくりによる交流体験、農地保全(遊休農地の発生防止)、世界遺産(町石道、丹生都比売神社)と山里の整備、史跡の保全、天野の里ウォーキングイベントの開催、ホテルを守る活動(ホテルの飼育・放流と鑑賞会等)です。



○ 「天野での田植え体験」

・かつらぎ町天野において、企業のふるさとのはじめての活動として、伊藤忠商事の若手社員50名と地元住民(天野の里づくりの会20名)が協力して、田植えやホテルを守るための遮光ネット張りなどに汗を流しました。参加した、社員からは、「空気も景観も最高、こんなところで農業体験ができて良かった」、「はじめて、田んぼに入って作業した、食や農業を見直す良いきっかけになった。」などの感想が出ていました。



● COP15サイクリングツアー開催

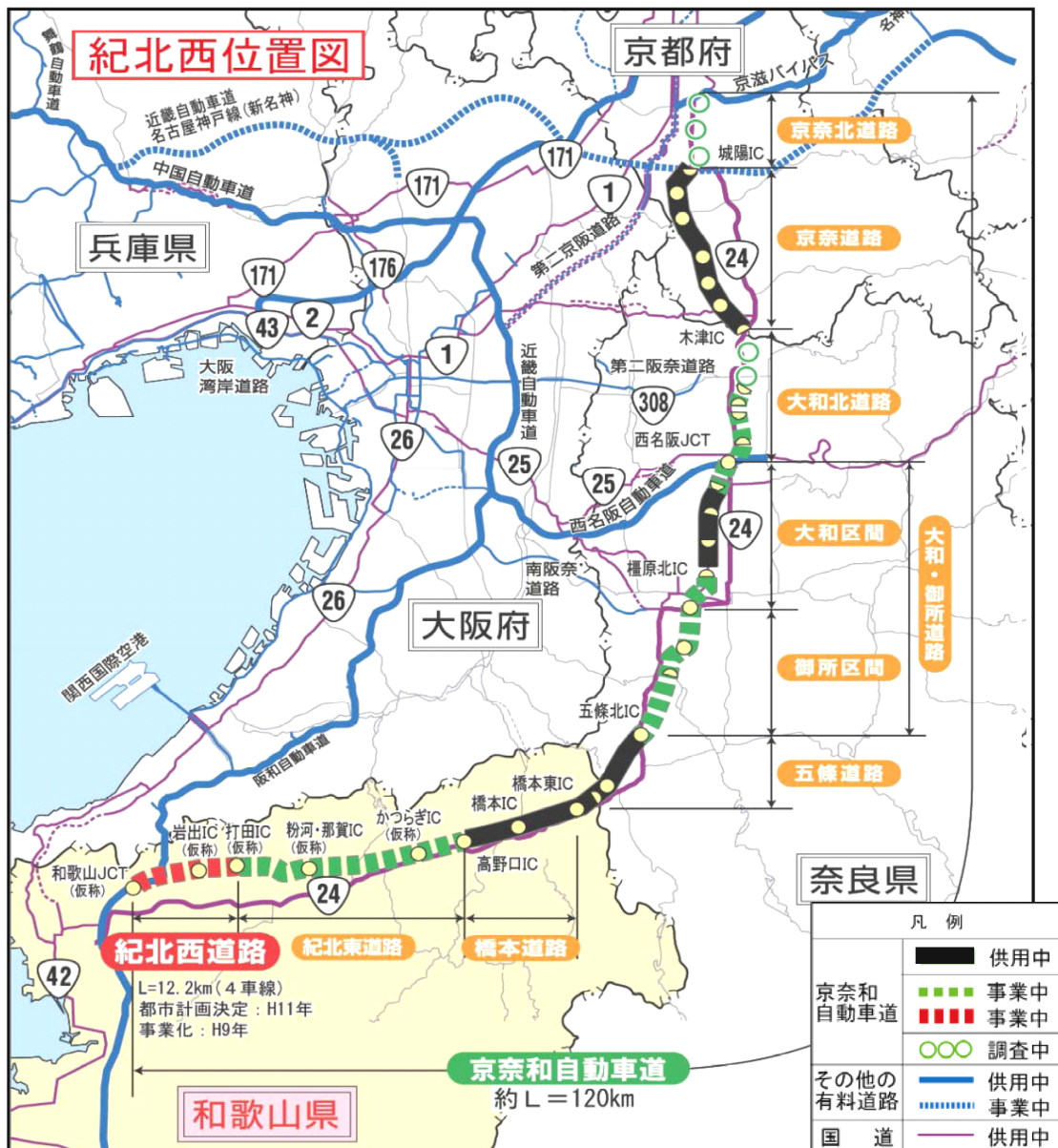
・地球温暖化防止のため、デンマークで開催されるCOP15(国連気候変動枠組条約第15回締約国会議)をアピールするサイクリングツアーが、和歌山市で開催されました。和歌山城の砂の丸広場でのエコアピール式典では、知事から、フランツ＝ミカエル・スキョル・メルビンデンマーク大使に「COP15 2009コペンハーゲン会議」に向けたメッセージを伝達しました。(右写真)

・またサイクリングツアーでは、多くの市民が、知事、大使とともに走りました。



●京奈和自動車道（紀北西道路）工事着手

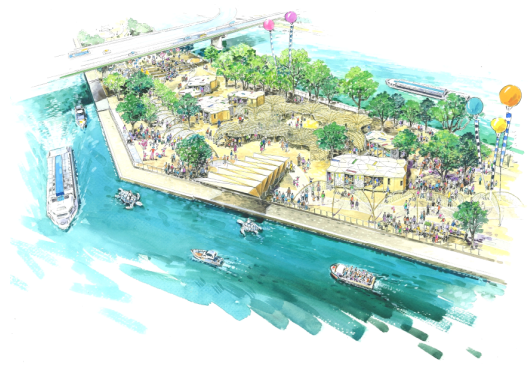
- ・国道24号京奈和自動車道「紀北西道路」の起工式を6月13日に開催しました。当日は紀の川市の中学校で式典、鍬入式を打田IC（仮称）道路事業地内（紀の川市神領^{じんりょう}）で行いました。
- ・これにより京奈和自動車道は県内の事業中区間（約40km）についてすべて工事着手することになります。
- ・県が要望している平成27年の国体開催までの県内全線供用に向けて大きく弾みがつくものと期待されています。
- ・県内の京奈和自動車道の整備状況については、橋本道路：県境～高野口間（11.3km）が平成19年8月に暫定2車線供用を開始し、紀北東道路：高野口～打田間（16.9km）が平成19年3月に工事着手しています。
- ・紀北西道路は紀の川市神領～和歌山市弘西間の12.2km区間で、平成19年度から用地取得に着手しています。



● 水都大阪2009のメイン会場を“紀州材”で建設
～紀州材・プロモーション推進プロジェクト事業を活用～

・本年度の「紀州材・プロモーション推進プロジェクト事業」の公募を行ったところ、『水都大阪2009』が採択されました。

・「紀州材・プロモーション推進プロジェクト事業」とは、木材の大消費地である大都市圏において紀州材ブランドの効果的なPRを行うため、紀州材を積極的に使用して施設の建設等を行う方に対し、木材費として1,000万円を上限に補助金を交付する事業です。



・今回採択された『水都大阪2009』は、8月22日から10月12日の52日間、大阪市北区中之島及び周辺河川で開催される一大イベントで、事業内容は、メイン会場である中之島公園会場を“紀州材”及び“紀州ヒノキ合板”で建設するというもの。

“紀州ヒノキ合板”は、昨年度トライアル生産したもので、会場の床、壁、天井等の見えて触れられる箇所を使用することから、“紀州ヒノキ合板”の美しさをPRでき、今後は公共施設、一般住宅への内装材等としての利用及び販路拡大が期待できます。

事業主体 水都大阪2009実行委員会 会長 平松 邦夫 大阪市長
事業場所 『水都大阪2009』水辺の文化座
大阪市北区中之島地先一部
開催期間 平成21年8月22日(土)～10月12日(月・祝) [52日間]

● 「わかやま食旅」サイトがオープン

・和歌山県観光連盟ホームページ「わかやま観光情報」において、新たに「わかやま食旅」サイトが6月9日オープンしました。

・ナレーション付で10品目を紹介。現地でのインタビューもあり、食材の魅力や製造・調理過程が詳しく説明されています。

(カツオ・クエ・シラス・醤油・マグロ・熊野牛・和歌山ラーメン・タチウオ・めはり寿司・精進料理)

*紹介している食材を「名物料理」として扱っている飲食店へのリンクや、寄せられた情報を発信する「blog」も設置しています。

アクセスはこちら ⇒ <http://kanko.wiwi.co.jp/gourmet/index.html>

* 「わかやま観光情報 HP」 ⇒ 「わかやま食旅」

●梅の日に伴い、トップセールスを大田市場で実施

・6月6日の「梅の日」に伴い、「紀州梅の会」（事務局：田辺市）が主催となり、東京都中央卸売市場大田市場において梅のPRを行いました。

・市場内では、仁坂知事、田辺市長、JA紀南組合長らが法被姿でトップセールスを行いました。

・知事は挨拶の中で、先日テレビで放映された梅のクエン酸が疲労回復に効果があるといった梅の機能性などを大いにPRしました。

・また、会場では地元から参加した栄養士の方による梅酒の作り方の講習をはじめ、梅料理の試食や梅ジュースの試飲などを行い、多くの市場関係者の方々に梅を深く知っていただくことが出来ました。

・今回は、梅のキャラクター「うめっぴ」が初登場し、また、平安衣装に身を包んだ二人の梅娘さんが場を和ませてくれました。



【和歌山の梅】

和歌山県は梅の栽培面積、生産量とも日本一（H20）

栽培面積 5,120 ha（全国の29%） 生産量 70,100t（全国58%）

●和歌山が登場する番組情報サイトがオープン（NHK和歌山放送局）

・NHK和歌山放送局が、和歌山が登場する番組の放送予定を「ホームページ」と「地上デジタル放送のデータ放送」で紹介するサイトを立ち上げました。

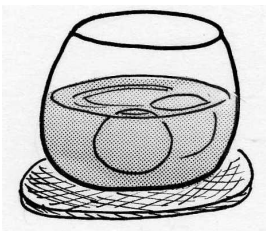
・NHKの番組には、各地方局が制作する地域に密着した番組以外に、東京や大阪のNHKが制作する「鶴瓶の家族に乾杯（日高川町等）」や「課外授業 ようこそ先輩（夢はかなえるもの 坂本冬美さん）」など和歌山が登場する見ごたえのある番組がたくさんあります。

・是非今回立ち上げたサイトを活用して、様々な和歌山が登場する番組をお楽しみ下さい。

アクセスはこちら ⇒ <http://www.nhk.or.jp/wakayama/>

NHK和歌山局ホームページ

→ 「和歌山番組情報」



この季節青梅が旬を迎えます。和歌山産の梅で、梅ジュースを作ってみては？

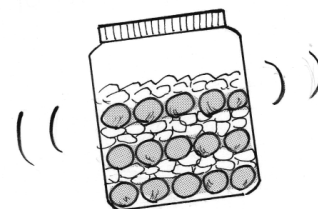
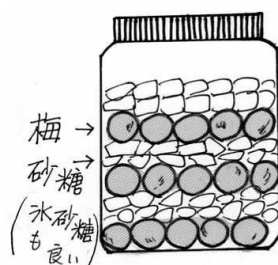
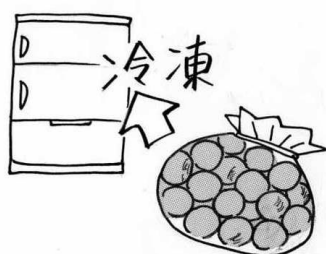
(夏の疲れを癒します。ふるさと和歌山を味わってください。)

***梅雨(つゆ)とは、梅の実が熟す頃の雨であることから称されます**

「作り方」

- ①梅 2 k g を冷凍庫に 24 時間以上入れます。
- ②砂糖 2 k g と梅を交互にビンに入れ、密封します。
- ③梅が解凍し始めたら、時々ビンを動かして砂糖を溶かします。約 10 日でジュースができていきます。
- ④保存する場合は加熱殺菌し、冷蔵庫に保存して下さい。

※飲むときは水などで 4 ~ 5 倍程度に薄めてください



***ご存知ですか？梅の日(6月6日)**

遡ること 460 余年前、日照り続きで田植えも出来ずに人々が困り果てていたのを見て、時の天皇が神のお告げにより賀茂神社に梅を奉納したところ、雷とともに大雨が降り出し、五穀豊穡をもたらしたというのが由来です。そうした由来を踏まえ、平成 18 年、みなべ町など紀南の梅産地の各団体でつくる「紀州梅の会」(会長 真砂充敏田辺市長)が、毎年 6 月 6 日を「梅を贈って健康を祝い、ロマンを語る日」、「梅の日」と決めました。

***梅酒の人気、急上昇中！**

梅酒はフルーティで口あたりがよく、飲みやすいとあってただ今大人気。消費量が 5 年前に比べて 7 割増。また平成 20 年 7 月にはみなべ町が梅酒特区に認定されたことから、うめ農家オリジナルの梅酒もたくさん出揃うかも。和歌山には「本場・紀州産梅酒の会」が結成されていて、産地ならではのこだわり梅酒がいろいろあります。飲み比べてお気に入りの 1 本を見つけて下さい。



世界遺産登録5周年記念事業



首都圏の主要書店で高野山・熊野三山をPR！

平成16年7月、世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」が今年で5周年を迎えるのを機に、首都圏においてその魅力を広く発信するさまざまな記念事業を展開することとしています。

そのひとつとして、首都圏の主要書店において、「高野山」「熊野三山」をはじめ世界遺産の地、和歌山観光の魅力を発信するプロモーションを実施することとなりましたのでお知らせします。

■□■ 首都圏主要書店での観光プロモーション ■□■

オリジナルブックカバーの配布♪ ～プレゼント応募券付き～

オリジナルデザインのブックカバー20万枚を配布。

抽選で、**南紀2日間の旅(3組6名)**などが当たるダブル企画です！

- ◎ 配布書店：丸善、リプロ、よむよむ、アシーネ
(東京、神奈川、千葉、埼玉の各都県内、計106店舗)
- ◎ 期間：6月25日から(ブックカバーがなくなり次第終了)

オリジナルフロアシートが登場♪ ～ブックカバー連動～

店舗内にフロアシートが登場し、和歌山関連書籍が並びます。

- ◎ 実施書店：リプロ、よむよむ、アシーネ
(東京、神奈川、千葉、埼玉の各都県内、計92店舗)
- ◎ 期間：6月25日～7月24日

フリーラックの設置♪ ～観光情報の発信～

店舗内フリーラックに季刊誌「紀州浪漫」などを設置し、情報発信していきます。

- ◎ 主な設置書店：丸善、紀伊國屋書店、リプロ
(東京、神奈川、千葉、埼玉の各都県内、計53店舗)
- ◎ 期間：6月4日～22年3月31日

6月25日午後、リプロ青山店では「きのくにフレンズ」が平安衣装でPRします！



世界遺産登録5周年記念 一万人の参詣道環境保全活動の実施について

■ 一万人の参詣道「環境保全」活動 趣旨

「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録5周年を迎える今、その本質的価値を再認識し、次世代に良好な状態で資産を継承する取り組みが重要であります。

このため、一万人の参加を目標に文化財保護専門家による指導のもと、企業等CSRやボランティア等による参詣道の保全活動（道普請、清掃、景観保全等）を推進します。

《主要な取り組み》

(1) 県主催環境保全ウォーク

1回目 高野山町石道 道普請ウォーク

1. 日 時：平成21年7月5日（日） 9：30～16：00
2. 場 所：高野山町石道（丹生都比売神社～壇上伽藍 約1.5km）
3. 定 員：200名（先着順）
4. 環境保全活動の内容
道普請：世界遺産センター職員等文化財保護の専門家の指導のもと、土を補修箇所へ運び、荒れた路面を平らにする。
5. 今後の予定

時期	場所	定員	環境保全活動
9月の日曜日	熊野古道 中辺路（王子ヶ浜～高野坂）	200	・清掃活動
11月の日曜日	熊野古道 大辺路（富田坂）	200	・道普請
1月の日曜日	熊野古道 中辺路（発心門王子～熊野本宮大社）	100	・ササユリの球根を古道沿いに植える

(2) 企業等CSR（社会貢献）による道普請等環境保全活動の推進

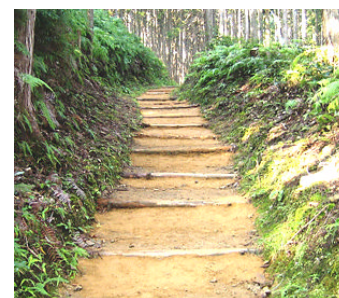
1. 誘致活動・・・PRリーフレット配布、担当課職員が企業や労組等を訪問し、積極的に働きかける。
2. サポート態勢・・・世界遺産センターによる活動内容や実施場所の調整及び現地指導
3. 活動紹介・・・世界遺産センターホームページにて活動実績紹介



（作業箇所：ビフォー）



（作業風景）



（アフター）

(3) 小中高校生の課外授業による環境保全活動

1. 参詣道ウォークや世界遺産センターでの学習活動
2. 実施校を県内全市町村に拡大（従来は、世界遺産所在地市町）

(4) 来訪者（語り部引率等）による環境保全活動 等

1. 清掃やゴミの持ち帰り運動をウォークとともに実施し、環境保全への意識啓発を進める。

問い合わせ先：和歌山放送 高野町石道「道普請ウォーク」

電話：073-428-1431（申し込み締め切り 6月24日）

世界遺産登録5周年関連事業年間スケジュール

時 期	行 事 名	場 所
3 月	ありがとう高野スイーツコンテスト（実行委員会主催）	高野山内
4月～9月	JR紀勢本線全通50周年タイアップPR	紀勢本線沿線及び周辺地域
5月20日・21日(19日前夜祭)	将棋「名人戦（第4局）」	高野山 金剛峯寺
5月～9月	世界遺産記念ウォーク（那智勝浦町主催）	那智勝浦町
6月下旬～7月上旬	首都圏主要書店タイアップPR	首都圏主要書店
7月5日	一万人の参詣道「環境保全」活動【高野山町石道 道普請ウォーク】	高野山町石道
7月3日	世界遺産 熊野本宮館（オープニングイベント）（田辺地域主催）	世界遺産 熊野本宮館
4月～7月	南海電鉄 高野線 観光列車「天空」タイアップPR	首都圏、東海圏、近畿圏等
7 月	熊野詣の誘客～語りが導く熊野三山～	新宮市、那智勝浦町、田辺市
9月8日～10月18日	特別展「熊野三山の至宝～熊野信仰の祈りのかたち～」	県立博物館
9 月	一万人の参詣道「環境保全」活動【清掃ウォーク】	熊野古道中辺路
9 月	世界遺産絵画・写真コンクール開催	高野町、田辺市、新宮市
9 月	世界遺産登録5周年記念大阪フィルハーモニー交響楽団コンサート（新宮市主催）	新宮市
10月16日	世界遺産シンポジウム（フラッグシップシンポジウム）（東京）	東京都内
10月	世界遺産シンポジウム（三県連携シンポジウム）（大阪）	大阪市内
10月	三県連携リレーウォーク	高野山町石道
10月	世界遺産フォーラム（世界遺産の保存と活用シンポジウム）（本宮）	世界遺産 熊野本宮館
11月3日～12月6日	特別展「描かれた熊野・高野（仮称）」	県立近代美術館
11月	世界遺産シンポジウム（海外・国内ネットワークシンポジウム）（和歌山）	和歌山市
11月	一万人の参詣道「環境保全」活動【道普請ウォーク】	熊野古道大辺路
12月～3月	ネクスコ西日本タイアップPR	県内高速道路沿線～熊野地域
1 月	一万人の参詣道「環境保全」活動【ササユリの復活ウォーク】	熊野古道中辺路

～ 湯浅醤油、町並み、釣りのメッカ、しらす 湯浅町 ～

湯浅といえば醤油や金山時味噌の製造が有名。今も製造の建物が多く残っています。

その美しい古い町並みは、2006年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されました。

**湯浅醤油・金山時味噌**

昔、中国の金山時（径山寺）へ行ったお坊さん（覚心和尚）が、野菜の入った美味しい金山時味噌を食べ、帰国後、同じものを作ろうと考えました。そこから、湯浅の金山時味噌へとつながります。

その味噌を製造する時に底に汁がたまるのですが、その汁の味をみると美味しく、そこから工夫されて「湯浅醤油」が出来ました。

醤油は、室町時代頃に商品化。江戸時代には、紀州藩の保護を受け、100軒近くの製造元がありました。

700年の歴史をもつ「金山時味噌」と「湯浅醤油」。昔と同じ加熱しない製法の醤油も作られています。

釣りのメッカ

湯浅は、魚種が豊富で小魚から大物の魚まで年中を通して釣りを楽しめる好釣場。

特に渡船で苅藻（かるも）島に渡って、フカセ釣りで狙う、春先のチヌ釣りは全国の釣師も知る好釣場として有名。

しらす

紀伊半島に面した湯浅湾は、古くから沿岸漁業が発達。中でも「しらす漁」が盛んです。しらすとは、鰯などの稚魚のことですが、湯浅湾では太平洋を黒潮にのって来る鰯の稚魚をとる「しらす漁」です。

すぐに大釜で茹で上げた「釜揚げしらす」。その後、天日干しをした「しらす干し、ちりめん」はどちらも人気。

湯浅町のしらす類加工量は、全国の1割強、和歌山県の9割弱を占めます。

湯浅町ホームページ <http://www.town.yuasa.wakayama.jp/>

～編集後記～

和歌山では、県内各地で田植え作業もほぼ終わり、水を張った田んぼは水鏡のごとく、周りの景色を写し輝くと同時に蛙の鳴き声があちらこちらで聞こえる季節を迎えました。

さて、6月は環境月間です。今月のトピックスにも掲載しましたが、先日「第8回わかやま環境大賞」が決定され、その表彰式が行われました。和歌山のすばらしい環境を保全するため、自主的かつ積極的に活動し、模範となる方々を表彰する制度です。

県内には、いろいろな環境保全活動を行う団体が沢山あり、各自が和歌山の環境を守るという高い志を持って活動していただいています。そういう方々は皆、わかやま環境大賞を受ける資格があります。

和歌山には、まだまだ、明滅しながら幻想的に飛び交う蛍が見ることが出来る所が各地にあります。魚釣りや川遊びができる河川が沢山あります。また、磯遊びや海水浴ができる海岸や海浜が随所にあります。山は緑で溢れています。そうした恵まれた自然環境が和歌山にはいっぱい残っています。しかしながら、そうした場所も今からしっかりと守っていくことが重要です。一度壊してしまえば、元通りにするには莫大な費用と多くの歳月を要するからです。

これから、夏に向かって多くの観光客の方々がいらっしゃいます。いつまでも「美しい和歌山」のままでお迎えできるように、みんなで頑張っていかなければならないと思います。

知事室秘書課長 藤川 崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願ひします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2009年(平成21年)6月 NO.15

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022